雑学書庫 知識の記録

# 半分ずつ伝えたのに、なぜ誤りなのか――偽りのバランス（False Balance）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/19582/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

ニュースの討論番組で、一方の席には数多くの研究成果を代表する科学者が、もう一方の席には少数意見を掲げる論客が座り、まったく同じ時間ずつ話します。一見公平に見えるこの場面が、かえって視聴者を誤った判断に導くとしたらどうでしょうか。メディア研究では、この現象を「偽りのバランス（False Balance）」と呼びます。 偽りのバランスとは、簡単に言えば「証拠の重みが大きく異なる二つの主張を、まるで対等であるかのように同じ比重で報道すること」を意味します。英語圏では「両方の言い分を伝える」という意味のボスサイディズム（Bothsidesism）とも呼ばれ、特に科学や保健の報道でたびたび指摘されてきました。 本記事では、偽りのバランスの意味と成り立ち、偽りのバランスが生まれる過程、気候変動とワクチン報道に見られる代表的な事例、そして偽りのバランスを避ける報道の方法まで、順に見ていきます。 公正に見えて判断を曇らせる報道 偽りのバランスの意味と成り立ち バランスの取れた報道は、本来メディアが守るべき大切な原則です。意見が分かれる問題で一方の声だけを伝えないようにするための仕組みだからです。問題は、この原則が事実を確かめる領域にまで機械的に当てはめられたときに生じます。 (1) バランス規範の出発点20世紀に入って客観報道が職業規範として定着すると、記者たちは自分の判断を示さずに双方の立場を並